

自愛 — 小林貴子へ

宮坂静生



萌信じ奈落に慣るゝこと勿れ
天地の間に萌ゆる宙のあり
米一粒日射しにすがり自愛せよ
大寒の日ざし貴子の目を癒せ
心眼は裸眼の奥に春よ来い
囁のはじめひところゑ信じゐる
闇を捨て三椶花を提げゐたり



寒の百合一花一座のひかり抱き
蜷局巻く山は噴く山鬼やらひ
父母や切干のいま狐色
雪の日のガードレールの孤独かな
傘寿とて大海原へ船起し
浪の花飛びサーファーは爬虫類
旋毛とは赤子の泉初子の日
目をひらき瞼の裏の枯れ毀す